

# 中学生の学校外での英語学習経験とは

Benesse 教育研究開発センター 研究員  
初海真理子

英語学習は、習い事や塾など学校外で行われている割合が比較的高く、また小学校入学前など早い段階から行われているケースも多い。では、中学生は学校外ではどのような英語学習を行っているのだろうか。本稿では中学入学前も含め中学校段階における学校外での英語学習の実態、およびその地域差、生徒の英語力や英語に対する意識との関連についてとりあげてみたい。

## 1 中学入学前の学校外英語学習

まず、中学入学前における学校外での英語学習の経験についてみてみよう（図4-1）。「あなたは中学校に入学する前（小学生の時やそれ以前）に、学校の授業以外で英語や英会話の勉強をしていましたか」とたずねたところ、全体の39.2%が「していた」と回答している。しかし、地域によって差があり、大都市や中都市では中学入学前の学校外での英語学習経験者がそれぞれ43.0%、41.1%であるのに対して、郡部では大都市に比べ8.6ポイント低い34.4%にとどまる。

次に、学校外英語学習の種類をみてみよう（表4-1）。中学入学前に学校外英語学習を「していた」回答者にその種類をたずねたところ（複数

回答）、全体では「学習塾」46.3%、「英会話教室」42.0%と、学習機関での英語学習が主に選択されているようだ。しかし、地域によって差がみられるものもある。「学習塾」については、中都市と郡部が大都市よりも15ポイント以上高く5割を超える。一方、「英会話教室」については、大都市では51.7%と、中都市や郡部よりも10ポイント以上高い。また、「家族に英語を習っていた」比率は、大都市が中都市、郡部よりもやや高い。本調査ではほかに英語との関わりについてたずねているが、「家族に英語を話せる人がいる」という項目での肯定率も、大都市は中都市、郡部よりも10ポイント以上高くなっており（図表省略）、この数値が反映されていると推測できる。

次に、小学校での英語教育（活動）と学校外で

図4-1 中学入学前の学校外英語学習経験の有無

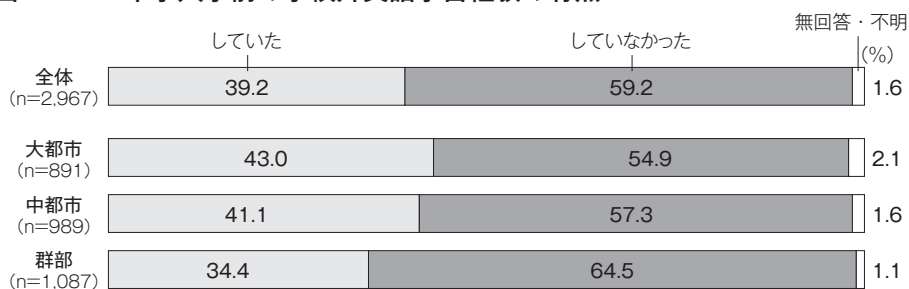


表4-1 中学入学前の学校外での英語学習の種類（地域別）（%）

	全体	大都市 (n=383)	中都市 (n=406)	郡部 (n=374)
学習塾	46.3	34.5	50.5	54.0
英会話教室	42.0	51.7	39.4	34.8
通信教育の英語教材	16.7	16.4	14.5	19.3
幼稚園や保育園	7.2	7.0	7.6	7.0
家族に英語を習っていた	6.1	9.9	4.2	4.3
書店で売られている教材	5.5	8.4	4.9	3.2
家庭教師	3.7	5.5	4.2	1.3
インターネット教材	1.9	2.3	1.2	2.1

注1) 中学入学前の学校外での英語学習の有無について「していた」と回答した1,163名のみを対象。  
 注2) 複数回答。  
 注3) 「その他」は省略。  
 注4) << >>は10ポイント以上、< >は5ポイント以上差があるもの。

図4-2 中学入学前の英語学習の内容

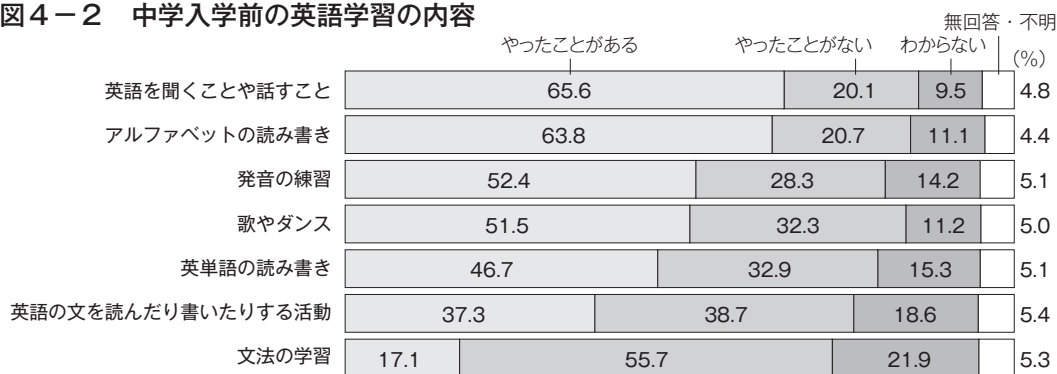
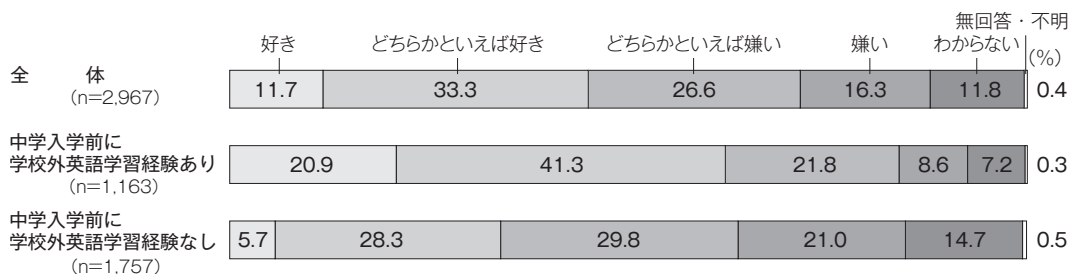


図4-3 中学入学前の英語の学習や英語に対する気持ち（中学入学前の学校外英語学習経験の有無別）



注) 中学入学前の学校外での英語学習経験の有無について、「していた」という回答を「中学入学前に学校外英語学習経験あり」、「していなかった」という回答を「中学入学前に学校外英語学習経験なし」とした。

の英語学習の内容についてみてみよう（図4-2）。英語学習の内容として「やったことがある」比率がもっとも高かったのは「英語を聞くことや話すこと」65.6%、次いで「アルファベットの読み書き」63.8%、「発音の練習」52.4%、「歌やダンス」51.5%と続く。「英単語の読み書き」「英語の文を読んだり書いたりする活動」「文法の学習」はいずれも5割未満にとどまる。総じて、英語を「聞く」「話す」活動が多い。「読む」「書く」活動については、文や単語よりもアルファベットの読み書き

のほうが多いようである。

つづいて、中学入学前に英語学習を経験した生徒は、英語に対してどのような意識を持ったのかについてみてみよう（図4-3）。「中学校に入学する前、英語は好きでしたか」とたずねたところ、「好き（好き+どちらかといえば好き）」と回答した比率は45.0%で、「嫌い（どちらかといえば嫌い+嫌い）」42.9%とほぼ同じだった。また、中学入学前の学校外英語学習経験の有無別にみると、学校外英語学習を「していた」生徒は英

語が「好き」という比率が62.2%と、「していなかった」生徒の34.0%を大きく上回った。さらに中学入学前の学校外英語学習経験は、中学校段階における英語に対する意識とも関連があるようだ。中学入学前は45.0%の生徒が英語を「好き」と回答しているが、本調査対象の中学2年生になると全体で25.5%と、その比率は大幅に減少している。しかし、中学入学前の学校外英語学習を「していた」生徒は中学校段階で英語が「好き」な比率が33.4%と、「していなかった」生徒（20.3%）より10ポイント以上高い（図表省略）。

## 2 中学校段階における学校外英語学習

次に中学校段階での学校外英語学習（家での英語学習を除く）についてみてみよう（図4-4）。「あなたは現在、学校以外の塾や習い事で、次のような英語の勉強をしていますか」とたずねたところ、学校外で何らかの英語学習を行っている比率は、全体では53.3%と半数を超える。しかし、地域別にみると大都市が62.1%ともっとも高く、中都市より5ポイント以上、郡部より15ポイント以上も上回る。

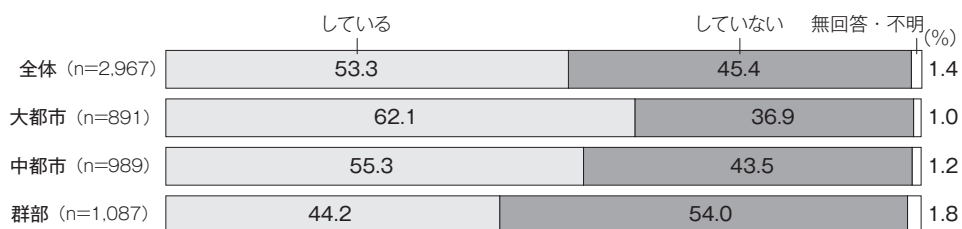
続いて、図4-5は何らかの学校外英語学習を「している」生徒を対象として、学校外英語学習

の種類について示している。「学習塾で英語を習っている」（81.0%）が、「英会話を習っている」8.7%、「家庭教師に英語を習っている」7.0%と比べ圧倒的に高い。一方で、学校外英語学習の種類に地域による違いはみられなかった（図表省略）。

学校外での英語学習は中学入学前後でどのように変化するのだろうか。全体的な傾向として、中学校段階になると学習塾で英語を学ぶ比率が、小学校の時やそれ以前より30ポイント以上増加し、英会話を習う比率が30ポイント以上減少している。大都市についてはとくにこの傾向が強くなり、学習塾の比率は46.3ポイント増加し（34.5%→80.8%）、英会話の比率は41.8ポイント減少している（51.7%→9.9%）（図表省略）。

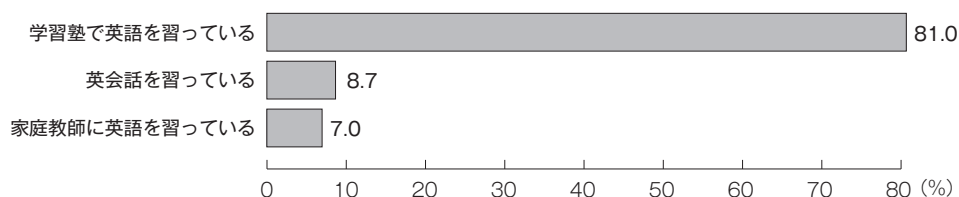
つづいて、学校外英語学習と、英語に対する意識との関連についてみてみよう（表4-2）。学校外英語学習の種類についてまずは英語を「得意・苦手」別にみると、英語が「得意」な生徒は「苦手」な生徒よりも「学習塾で英語を習っている」比率が24.8ポイント高く、学校外英語学習を「していない」比率が28.6ポイント低い。さらに、「好き・嫌い」別にみると、英語を「好き」な生徒は「嫌い」な生徒よりも「学習塾で英語を習っている」比率が20.5ポイント高く、学校外英語学習を「していない」比率が22.6ポ

図4-4 中学校段階の学校外英語学習（家での英語学習を除く）の有無



注) 「現在、学校以外の塾や習い事で、次のような英語の勉強をしていますか」（複数回答）という質問に対し、「していない」を選択した場合を「していない」、「英会話を習っている」「学習塾で英語を習っている」「家庭教師に英語を習っている」「その他」のいずれか1つ以上を選択した場合を「している」、いずれも選択しない場合を「無回答・不明」とした。

図4-5 中学校段階の学校外英語学習の種類



注1) 複数回答。 注2) 「その他」は省略。

注3) 「現在、学校以外の塾や習い事で、次のような英語の勉強をしていますか」という質問に対し、「英会話を習っている」「学習塾で英語を習っている」「家庭教師に英語を習っている」「その他」のいずれか1つ以上を選択した1,580名を対象。

表4-2 中学校段階の学校外英語学習の種類（英語を「得意・苦手」別・「好き・嫌い」別）

	得意・苦手別		好き・嫌い別		(%)
	得意 (n=1,114)	苦手 (n=1,833)	好き (n=757)	嫌い (n=2,210)	
学習塾で英語を習っている	58.5	33.7	58.4	37.9	≫
英会話を習っている	8.9	1.9	9.5	2.9	>
家庭教師に英語を習っている	3.8	3.7	3.6	3.8	
していない	27.7	56.3	28.5	51.1	≪

注1) 複数回答。 注2) 「その他」は省略。  
 注3) ≪ ≫は10ポイント以上、> <は5ポイント以上差があるもの。  
 注4) 「得意」は、「英語が得意ですか、苦手ですか」という質問で、「とても得意」「まあ得意」と回答した生徒、「苦手」は「とても苦手」「やや苦手」と回答した生徒。  
 注5) 「好き」は、「どの教科が好きですか」という質問で、「英語」を選択した場合を「好き」、選択しなかった場合を「嫌い」としている。「嫌い」と回答しているわけではないが、ここではわかりやすさを考慮して、「嫌い」と表記している。

表4-3 中学校段階における家での英語学習の種類（英語に対する認識別）

	全体 (n=2,967)	得意・好き (n=630)	得意・嫌い (n=484)	苦手・好き (n=122)	苦手・嫌い (n=1,711)
学校の勉強（宿題、予習・復習など）	74.5	86.3	78.3	80.3	68.8
塾や英会話教室などの勉強（宿題、予習・復習など）	35.0	54.3	45.2	32.8	25.0
通信教育	19.3	24.3	21.3	21.3	16.9
自分で選んだ問題集	15.3	22.2	11.2	23.0	13.3
テレビやラジオの英語講座	2.7	5.4	3.1	3.3	1.5
インターネットの英語教材	1.0	1.3	0.8	3.3	0.9
していない	15.4	3.8	9.3	7.4	22.0

注1) 複数回答。 注2) 「その他」は省略。  
 注3) ≪ ≫は10ポイント以上、> <は5ポイント以上差があるもの。

イント低い。英語を得意であること、好きであることと、学校外英語学習経験の因果関係については、今後さらなる分析が必要ではあるが、学校外英語学習経験と英語の「得意・苦手」「好き・嫌い」という意識には何らかの関係があることが読みとれる。

### 3 中学校段階における家での英語学習の種類

次に、家での英語学習についてみてみたい（表4-3）。学校の勉強などに限らず、塾や英会話教室などに関連した学習（宿題、予習・復習など）も含め、家でどのような種類の英語学習を行っているのかについてたずねた。もっともよく行われている学習は「学校の勉強（宿題、予習・復習など）」で、全体の約4分の3が行っていた。次いで、「塾や英会話教室などの勉強（宿題、予習・復習など）」35.0%、「通信教育」19.3%、「自分で選んだ問題集」15.3%と続く。「テレビやラ

ジオの英語講座」「インターネットの英語教材」の比率はかなり低い。さらにこれを地域別にみると、大都市では「塾や英会話教室などの勉強（宿題、予習・復習など）」が45.1%と、中都市（34.9%）、郡部（26.7%）よりも高いが、「学校の勉強（宿題、予習・復習など）」については、63.3%と、中都市（76.9%）、郡部（81.4%）より低い（図表省略）。

さらに、英語に対する認識別（英語に対する認識の4タイプについては14ページ参照）に家での英語学習についてみたところ、「苦手・嫌い」の生徒は「学校の勉強（宿題、予習・復習など）」「塾や英会話教室などの勉強（宿題、予習・復習など）」を行う比率がそれぞれ低く、「していない」比率は4タイプ中でもっとも高い。一方で、「得意・好き」の生徒は、「学校の勉強（宿題、予習・復習など）」「塾や英会話教室などの勉強（宿題、予習・復習など）」を行う比率がそれぞれ高い。「得意・好き」の生徒は学校外学習機関での英語学習を行う比率がもっとも高く、逆に「苦手・嫌い」

の生徒はもっとも低いことを考えると（図表省略）、「得意・好き」の生徒は家においても、また塾などの学校外学習機関においても「苦手・嫌い」の生徒よりも英語学習をよく行っていると推測することができる。

また、「自分で選んだ問題集」を使って英語学習を行う比率については、「得意・好き」「苦手・好き」の生徒のほうが「得意・嫌い」「苦手・嫌い」の生徒よりも高い。「自分で選んだ問題集」のような自主的な英語学習を行うことに関しては「好き」という気持ちが関連しているようだ。

#### 4 中学校段階における学校外での英語学習時間

これまで、学校外学習機関および、家での英語学習の種類についてみてきた。それでは、中学生はこれらの学習を1日あたり平均して何時間行っているのだろうか。まずは英語以外も含めた学校外学習時間（学習塾、家庭教師について勉強する時間も含む）についてみてみよう（図4-6）。学校外学習時間は「1時間」が18.7%ともっとも多く、「2時間」17.8%、「ほとんどしない」16.5%が続く。また学校外での平均学習時間は1日あたり84.1分である。一方、学校外での英語学習時間はどうか（図4-7）。英語の学校外学習を「ほとんどしない」が24.7%ともっとも多く、「30分」22.6%、「15分」19.0%が続く。また、英語の1日あたりの学校外学習時間の平均は32.2分なので、英語の学習時間は学校外学習時間全体のなかで4割弱を占めているといえることができる。

では、英語の学校外学習時間について地域による差はみられるのだろうか（図4-8）。まず地域別の1日あたりの学校外での英語学習時間の平均についてみてみよう。大都市が37.5分と、中都市（30.8分）や郡部（29.2分）よりも長い。同時に、大都市では学校外での英語学習時間のバラつきが比較的大きいようだ。大都市は、学校外での英語学習について「ほとんどしない」が29.4%と、中都市、郡部よりも5ポイント以上高い。一方で、「15分」または「30分」の生徒は中都市と郡部で比率が高いが、大都市ではそ

れぞれ5ポイント以上低い。さらに「1時間」「1時間30分」については、大都市は中都市、郡部より高い。これらのことから、中都市、郡部と大都市とで学校外での英語学習時間が二極化する傾向が強いことが考えられる。

次に、英語に対する認識別に学校外での英語学習時間についてみてみよう（図4-9）。「得意・好き」の生徒は平均して46.1分ともっとも長い。つづいて「得意・嫌い」「苦手・好き」な生徒の平均時間はそれぞれ37.3分、37.4分とほぼ同程度であった。もっとも学習時間が短いのは「苦手・嫌い」の生徒で、平均時間は25.2分であった。さらに「苦手・嫌い」の生徒の約3分の1が「ほとんどしない」と回答している。「好き」または「得意」という気持ちのどちらかがあれば、ある程度の時間は英語学習を行うようである。さらに「好き」かつ「得意」であればもっとも学習時間が長い。1日あたりの学習時間をみてきたが、仮に1年間の総学習時間を計算してみると（1日あたりの平均時間×365日）、「得意・好き」280.4時間、「得意・嫌い」226.9時間、「苦手・好き」227.5時間、「苦手・嫌い」153.3時間となり、もっとも差が大きい「得意・好き」な生徒と「苦手・嫌い」な生徒では実に年間で127.1時間異なってくる。127.1時間の英語学習は、すなわち現教育課程における1年分以上の授業時間に相当する（週3時間×年間35週＝105時間）。

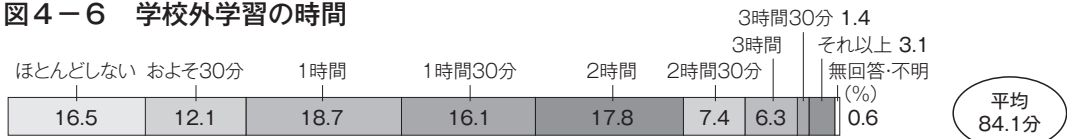
#### 5 まとめ

本稿では、中学入学前および中学校段階での学校外英語学習の実態や、その経験と英語に対する意識や認識との関係について分析をしてきた。

学校外での英語学習の経験は、その因果関係については今後さらなる精査が必要なものの、英語を「好き」という気持ちや、英語を「得意」と感じる意識と関連があることがうかがえる。しかし、地域別にみると、大都市では中都市・郡部よりも学校外での英語学習をする生徒が多い一方で、英語学習時間のバラつきも大きく、生徒の英語力の差がより大きい可能性がある。

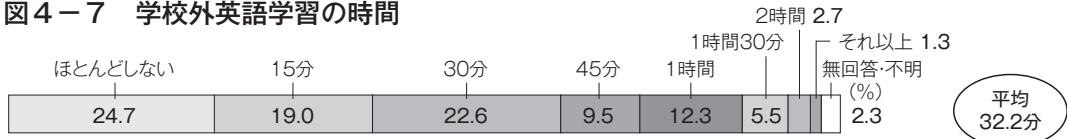
また、全体の約6割にあたる「苦手」かつ「嫌

図4-6 学校外学習の時間



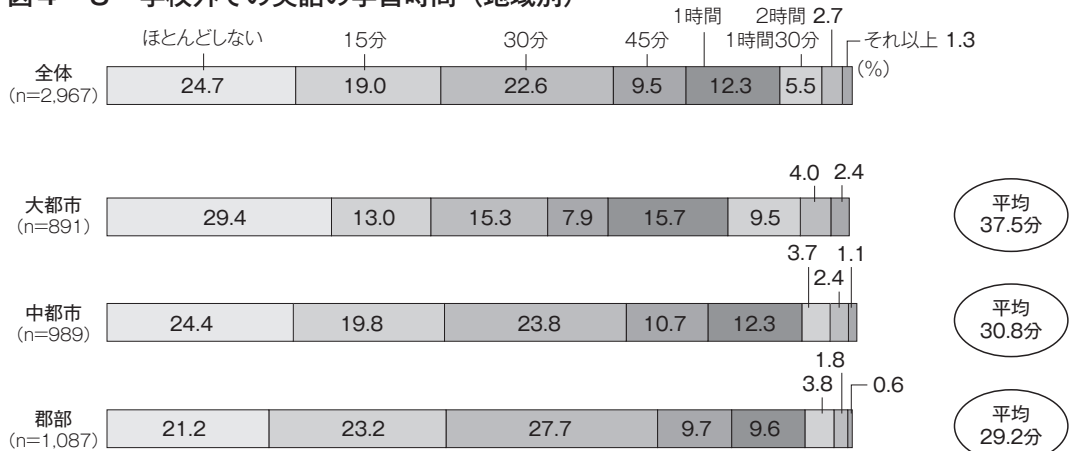
注)「それ以上」は4時間として平均時間を算出した。

図4-7 学校外英語学習の時間



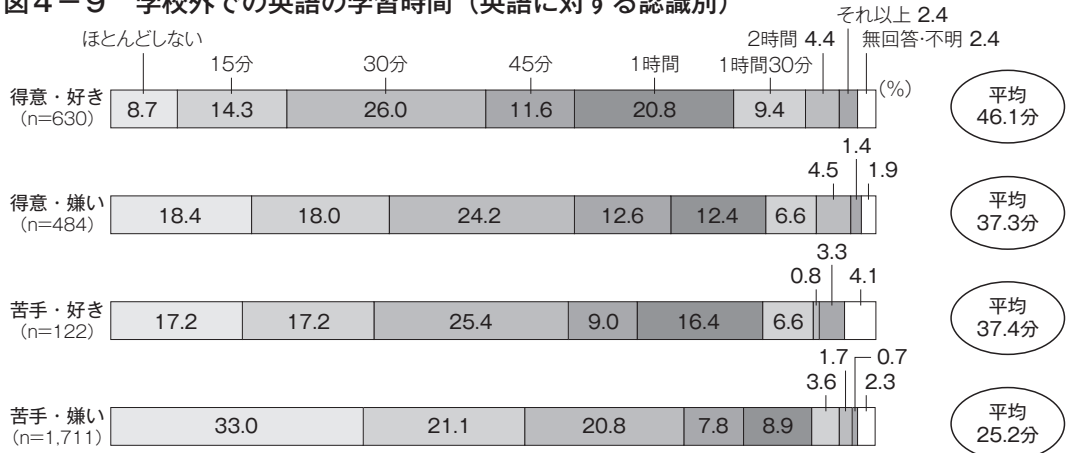
注)「それ以上」は2時間30分として平均時間を算出した。

図4-8 学校外での英語の学習時間 (地域別)



注)「無回答・不明」は省略。

図4-9 学校外での英語の学習時間 (英語に対する認識別)



注) 英語に対する認識の4タイプ、「得意・好き」「得意・嫌い」「苦手・好き」「苦手・嫌い」については、14ページ参照。

い」な生徒は学校外英語学習時間が短いことがわかった。一方で、少なくとも「好き」または「得意」という気持ちがあれば、学校外でもある程度の英語学習を行っているようである。中学校以降にわたり英語力を高めるためには、「自律的な学

習者」としての姿勢を育成する必要があるといわれている。今回の調査を通して、「自律的な学習者」の土台として、英語が「好き」または「得意」という意識・態度を身につけることの重要性を改めて確認できたのではないだろうか。